



〒581-0003 八尾市本町 7-11-18
八尾メディカルアベニュー 2F
TEL 0729-90-5820
FAX 0729-90-5830

菊池内科ホームページ

<http://www.kikuchi-clinic.com/>

<http://www.kikuchi-clinic.com/ez/> (for EZweb)

<http://www.kikuchi-clinic.com/i/> (for i-mode)

1 頁：薬の長期処方(2)

4 頁：老人医療費の負担増(2)

6 頁：肝炎ウイルス検診の開始

薬の長期処方についてのご提案(2)

4月の診療報酬改定に伴って、薬の処方日数の制限が大幅に緩和されました。

今までは、原則14日分で、特定の慢性疾患に限って30日分、ごく一部の薬については90日分というのが処方日数の限度でした。これが、一部の薬を除いて「**原則として無制限に処方可能**」となりました。

他の医療機関では、どの様にされているのか様子を見ていたのですが、案外大きな変化は起きていないようです。業界の雑誌等を見ても、「**2週間出している薬を、1か月分出してほしいと言われたらどうしよう?**」という程度の低い悩みが多いようでした。

再診料などの減額(月内逓減制)に対して、医師会などの団体はしつこく文句を言い続けていますが、私はこの「長期処方」の規制緩和が医療界に変革を起こすのではないかと考えています。

今まで何度も書いたことですが、他の医療機関から当院に転院してこられる患者さんからよく聞かれるのは、「えっ? 血圧の薬って1か月分も出してもらえるのですか?」というような言葉です。

1か月分処方できる薬を、2週間分しか出せないと言いついてまで、再診料を稼ごうとしている医療機関がいかにも多いか、残念なことです。

情報化の時代に、患者さんに情報を公開せずに、「私の言うことを聞かないとどうなっても知らないよ!」とドーカツするのがいかに古くさいことか、まだ気づいていない政治家のような医者がいかに多いことでしょうか!

長期処方について、私の考えとしては、最長3か月分までと考えています。ただ、厚生労働省がいうところの、「経過を予見できる範囲」つまり、その間に病状に変化が起こる可能性が低いこと、薬を変更する可能性がかなり低いことが条件になります。

たとえば、高血圧症だけの患者さんなら、

1. **服薬がきちんとできている。**
2. **血圧が安定している。**
3. **自分で血圧測定をして、手帳などに記録している。**

など、病状が安定していることと、自己管理ができる優秀な患者さんであることが条件です。

4月以降、当院では一部の患者さんに対して、45日分・60日分・90日分の処方

を行っています。ご希望の方は、お申し出下さい。ただし、病状によっては、「あなたは無理です。」とお断りすることになりますので、ご了承下さい。

薬の話のついでと言ってはなんですが、**薬についてのお願い**があります。

1. **薬はきちんと飲んで下さい。**もし、きちんと飲んでいない時は、正直に話して下さい。のめない理由があればそれも教えて下さい。

どう考えても、のみ忘れがある(30日分出したのに、40日目に来院される)のに「絶対、きちんと飲んでる。」と言われるのが一番困ります。



なぜ困るのかというと、たとえば、高血圧症の場合、**薬をきちんと飲んでるのに血圧が高いのか**
薬が切れているから血圧が高いのか

かかか、**治療の方針が全く違ってきます。**

のみ忘れたからといって、怒鳴ったりはしませんから、正直に教えてください。

2. **薬が切れる前に、来院してください。**

「薬が切れたから来ました。」という方が結構多いのですが、これは困ります。先の1の話と重なるのですが、治療の効果がわからないのです。

せっかく、1か月間薬をのんでも、2,3日薬が切れると「元のもくあみ」になってしまう場合が多いのです。

3. **薬のみ方も、しっかり覚えておいて下さい。**

糖尿病の薬では、「食前に服用」という薬が多いのですが、同じ食前でも「**食直前**(10分以内)」という薬と、「**食前30分**」というものがあります。よく覚えておいて下さい。

そして、のみ忘れた時にはどうするか、これは病気によっても違いますし、薬の種類によっても違いますので、あらかじめ確認しておいて下さい。(気づいた時点でのんでもいい薬、次の食事まで待ってのむ薬、その日はのまない方がいい薬、などいろいろありますので)

4. **何の薬なのか、はっきり覚えておいて下さい。**

2種類以上の薬をのんでおられる場合、一部の薬だけが余ってくる(あるいは足りなくなる)ことがよくあります。そんな時に、「白い丸い錠剤が1枚余っている。」などと言って頂くのですが、薬はほとんどが白い丸い錠剤ですので、困ってしまいます。

それに、当院は「院外処方」なので、(自慢ではありませんが)**大部分の薬の外見を私は知りません。**幸い、大部分の調剤薬局では、「**薬の手帳**」や「**薬剤情報提供書**」などを渡してくれると思いますので、それと照らし合わせて、「**何という薬が何錠余って**

いる」というように教えてもらえれば、薬の日数の調整ができ、**無駄な医療費を節約できるのです**。できれば、薬の台紙をお持ち頂ければ、よりはっきりします。

薬の手帳や、薬剤情報提供書などは保険点数がついています。つまり、お金を払っているのです。遠慮する必要はありませんので、当院あるいは調剤薬局でお尋ね下さい。



左の写真のように、大部分の薬は台紙1枚に2×5で10錠ですが、**最近は1週間分単位(2×7で14錠とか、3×7で21錠が1枚)**になっている薬もありますので、「何枚」ではなく、「何錠」あるいは「何日分」と教えて頂く方が正確です。

左の薬ですが、「(四角)」の中に「f」は、藤沢薬品のマークです。そのマークに254という数字がつくと、この「コロネル」という薬をあらわします。500という数字は、薬の分量をあらわしますので、これも大事です。

いわゆる有名製薬会社の薬は、ほとんど記号と日本語の名前が併記されています。親切に、「**血圧の薬です**」と書いてある薬まであります。

残念なのは、一部製薬会社の中には、会社名も薬の名前もわからない(それでも薬局で調べるとだいたいわかるようですが)薬があることです。

C型慢性肝炎の新しい薬について

C型慢性肝炎の根本的な治療は、**インターフェロン**でウイルスを駆除することですが、ウイルスの種類や数によっては有効率が低いため積極的に勧めにくい状況でした。

インターフェロンと併用すると有効率が高くなる内服薬(**リバビリン**：商品名**レボトル**)が昨年末から保険適用となり、効果が期待されます。

現在、当院では1人の患者さんが治療中ですが、近いうちに3人になる予定です。さらに検討中の方も数人おられます。

1回だけではなく、2回目以降の治療も保険で可能になっています。

6～7頁に書いていますが、日本人のがん死亡の中で、男性の3位・女性の4位が肝臓がんです。**慢性肝炎から肝硬変症になった場合は、かなり高い率で肝臓がんになる**と言われていています。

これから医療費負担が増えてきますし、治療を始めるのに早すぎることはありませんので、これを機にインターフェロン療法を検討されてはいかがでしょうか。

肝臓病に関するご相談は、経験豊富な当院にご相談下さい。

老人医療費の負担増に対するご提案(2)

「郵政民営化」や「有事法制」等で国会審議が遅れていますが、今国会で法案が成立すれば、今年10月から老人医療、来年4月から社会保険本人の医療費の負担が増える予定です。

老人医療の方は、現在は1日850円(月4回まで)の負担ですが、これは定額制の診療所の特例で、すでに200床以上の病院では昨年1月から1割負担になっています。ただし上限があり、月に5300円まで(院外処方の場合は、病院と調剤薬局で各2650円)となっています。

10月からは、**診療所でも1割負担**になります。現在は調剤薬局での負担はありませんが、**薬局でも1割を支払うことになります。収入の多い方はそれぞれ2割負担**です。

負担の上限はありますが、負担上限額も高くなるため、ほぼ完全に1割(あるいは2割)負担になります。

現在		今年10月から
当院での支払い		
1日850円 (月4回まで)		1割 (一定以上所得者は2割)
薬局での支払い		
なし		1割 (一定以上所得者は2割)

1月当たりの限度額 (診療所の外来)			
現在		今年10月から	
3400円		一定以上所得者	40,200円
		一般	12,000円
		低所得者	8,000円

老人医療で1日850円しか負担していない方は、1割負担といっても具体的にいくらかかるかピンとこないと思います。右ページに具体例を挙げてみました。

これをみると、1日850円の間には駆け込みで診察や検査を受けておこうという方が8月・9月は増えるはずですが、そういった心理をあおるつもりはありませんが、みすみす高いお金を払わないように考えてみてください。

当院の領収書には「**診療費合計**」という項目があります。これが、かかった医療費の総額です。1割負担なら、この金額の1割が実際に支払う金額になります。

また、調剤薬局では現在支払いがないため、領収書もないと思いますが、1割負担するといくらかかるのか聞いてみて下さい。

1. 高血圧症で月1回通院中。診察のみで検査がなく、投薬がある場合。

継続管理加算(5点) + 再診料(81点) + 外来管理加算(57点)
+ 老人慢性疾患生活指導料(225点) + 処方せん料(84点) = 452点

現在		今年10月から
850円		450円

ただし、調剤薬局でも
1割の負担があります。
(以下の例でも同様)

2. 糖尿病で月1回通院中。血液検査・尿検査を受け、診察・投薬の場合。

上記1.と同額の診察料・処方せん料(452点)
+ 一般的な内容の検査(538点) = 990点

現在		今年10月から
850円		990円

処方せん料は、薬の種類
数・後発品を含むかどう
か・慢性疾患であるかどう
か・月2回目までかどうか
などで異なります。

3. 上記2.と同様の検査・診察で、インスリン注射をしている場合。

継続管理加算(5点) + 再診料(81点) + 外来管理加算(57点)
+ 在宅自己注射指導管理料・注射針等(1200点)
+ 一般的な内容の検査(538点) = 1881点

現在		今年10月から
850円		1880円

4. 初診で胃カメラを受け、胃ポリープが見つかり、組織検査を行った場合。

初診料(270点) + 胃カメラ(1217点)
+ 病理組織検査(1326点) = 2813点

現在		今年10月から
850円		2810円

5. 再診で大腸ファイバーを受け、2か所ポリープがあったため切除をした場合。

再診料(74点) + 内視鏡的大腸ポリープ切除術(5540点)
+ 病理組織検査(1906点) = 7520点

現在		今年10月から
850円		7520円

ポリープ等の組織検査料は、ポリープの個数(正確には臓器数)によって違います。

検査料には、検査そのものの料金・検査の手技料・使用する薬剤料・検査判断料などが含まれています。

肝炎ウイルス検診について

6月1日から、八尾市民の方は、B型およびC型肝炎ウイルスの検診を受けることができるようになりました。(今年4・5月に基本健康診査を受けられた方は、八尾市からの通知書をお持ちいただければ、二次検診として受けることができます。)

現在、ウイルス性肝炎(および肝硬変)の方は多く、特に**C型肝炎患者さんは、高率に肝臓を癌化することがわかっています。**(逆に言えば、**肝炎ウイルスに感染していない方が、肝臓を癌化することは非常に少ない**のです。ただし、**アルコール性肝硬変も危険**です)

肝炎ウイルスに感染しているかどうかを知ることが、肝臓の早期発見の第一歩です。一度は検査を受けておかれることをお勧めします。

対象となるのは

八尾市基本健康診査を受けられる方で、**40歳、45歳、50歳、55歳、60歳、65歳、70歳**の方

八尾市基本健康診査を受けられる方で、上記の年齢以外でも

1. 過去に肝機能異常を指摘されたことのある方
 2. 広範な外科的処置(大きな手術など)を受けたことのある方
 3. 妊娠・分娩時に多量に出血したことのある方
(**輸血や凝固因子などの血液製剤を投与された可能性がある方**)
- で、定期的な肝機能検査を受けていない方

八尾市基本健康診査にて**ALT(GPT)値により「要指導」とされた方**

対象にならない方は

ALT(GPT)値により**要医療**とされた方

(はやく保険医療を受けて下さいということです)

過去に当該肝炎ウイルス検診を受けたことのある方

(つまり**この検診は1回しか受けられない**ということです)

現在、B型あるいはC型肝炎(肝硬変を含む)で治療中の方

(今さら検診で調べる必要性がないということです)

費用は無料です。

約2ccの採血(基本健康診査の採血以外に)が必要です。

検査結果が出るのに、約1~2週間かかります。

肝炎ウイルス検診は、希望により受けていただくもので、強制ではありません。

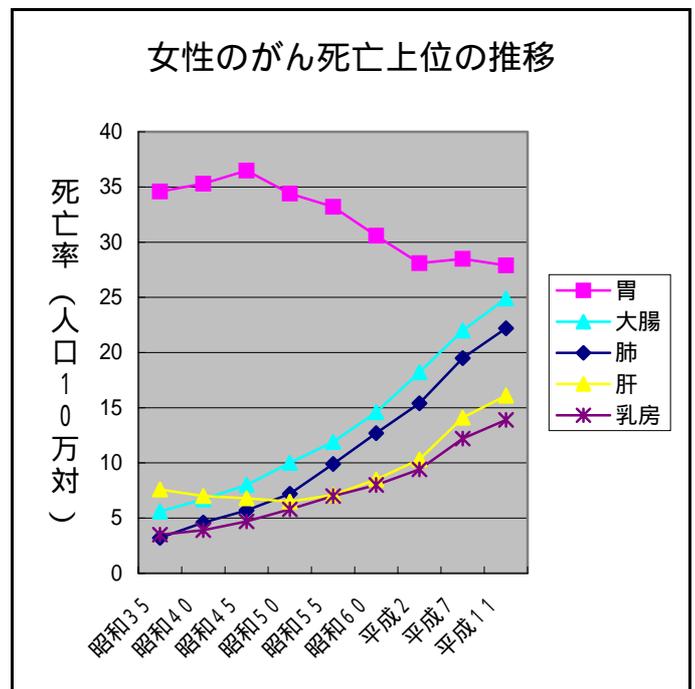
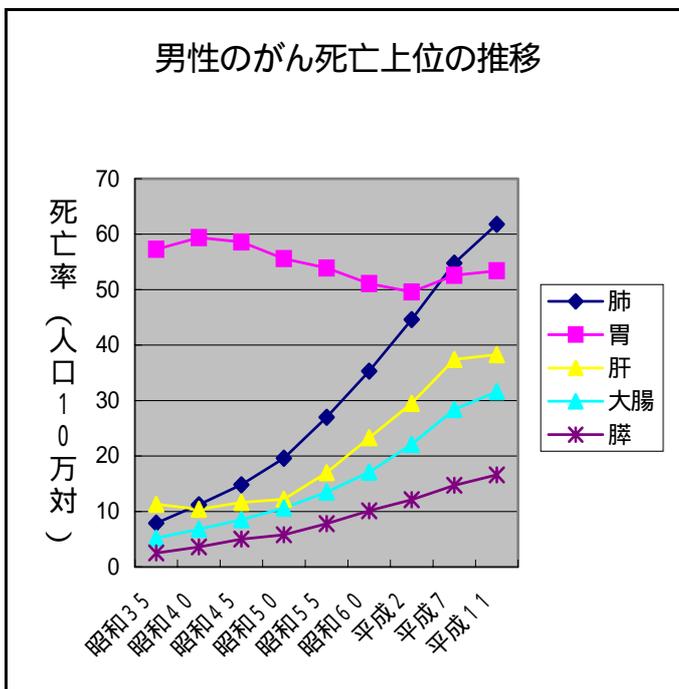
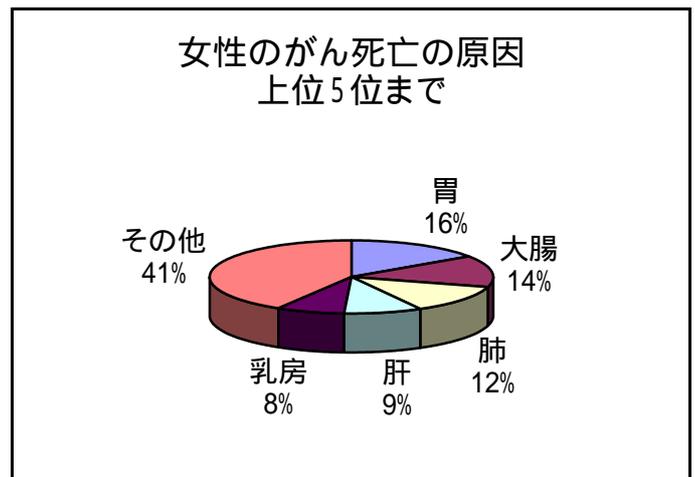
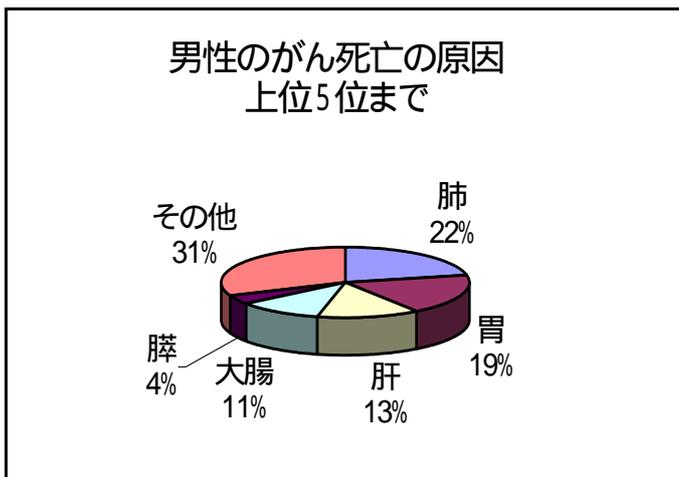
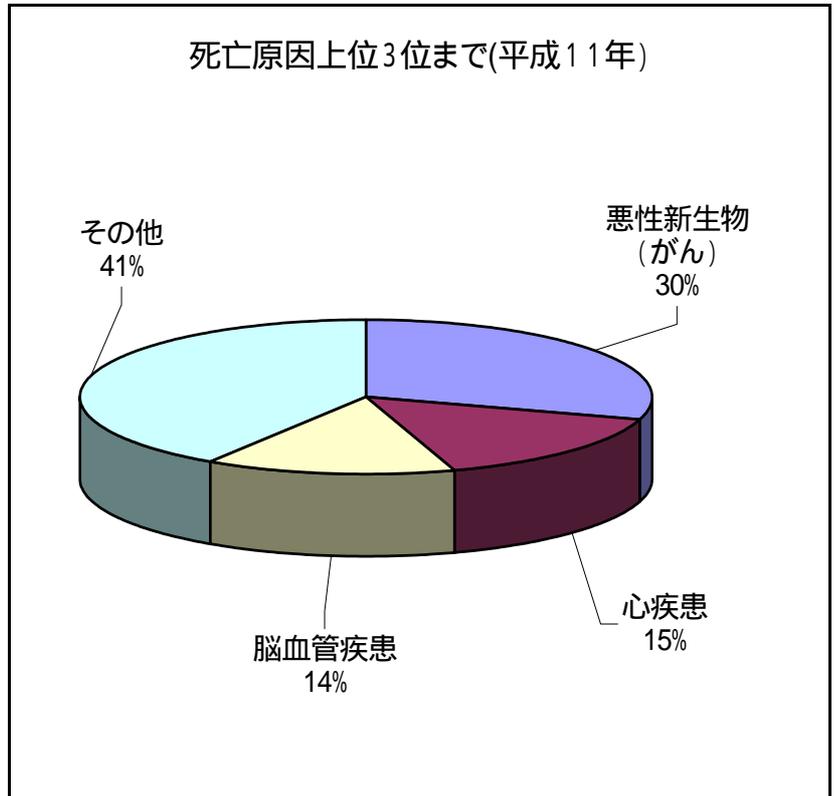
(おそらく、無料であることをいいことに、「八尾市基本健康診査と同時に**みんな受けることになった**」と(半)強制的に問診票を書かせて採血をする医療機関が出ることでしょう。)

ご存知のように、日本人の死亡原因の第1位は「がん」です。

その内訳は、下のグラフの通りですが、胃癌以外は増加傾向にあります。

胃癌は男性で横ばい、女性では減少傾向です。これは食生活の変化も影響していると思いますが、検診が広く行われるようになって、早期に発見されることが多くなっているためと思われます。

予防（肺癌なら禁煙、肝癌なら肝炎ウイルスの治療や禁酒など）や早期発見（定期検診）がたいへん重要です。



先月読んだ本のご紹介

(かなり休みましたが、再開します。)

「たまご博物館」

高木 伸一 著

芳賀書店(1500円+税)

栄養豊富な食品であり、物価の優等生とも言われる卵。そのすべてがわかります。

「コレステロールが高い人は卵を食べてはダメ」とよく言われますが、本当でしょうか？

著者は、卵屋さんではなく、(株)NTTデータにお勤めだそうです。

<http://village.infoweb.ne.jp/~takakis/>



会計の誤りのお詫び

4月に来院されたときと同じ診療内容にもかかわらず、5月の方が10円か20円高かった方が一部おられます。「後発品を含む処方」かどうかで処方せん料が2点(20円)ちがうのですが、厚生労働省の告示が遅れたため、安い方の点数でとりあえず精算したのが原因です。

1円の位を四捨五入するため、差額が0円~20円となりますが、当院は頂きすぎではいませので、ご了承下さい。

日本医師会提供の健康番組

「からだ元気科」

毎週金曜日 11:00~11:25

読売テレビ(10チャンネル)

6月 7日 糖尿病性網膜症
14日 慢性心不全
21日 水虫
28日 若さを保つ食事

夏休みのお知らせ

8月22日(木)・23日(金)・24日(土)の3日間を休診とさせていただきます。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前9~12							×
午後4~7			×			×	×